

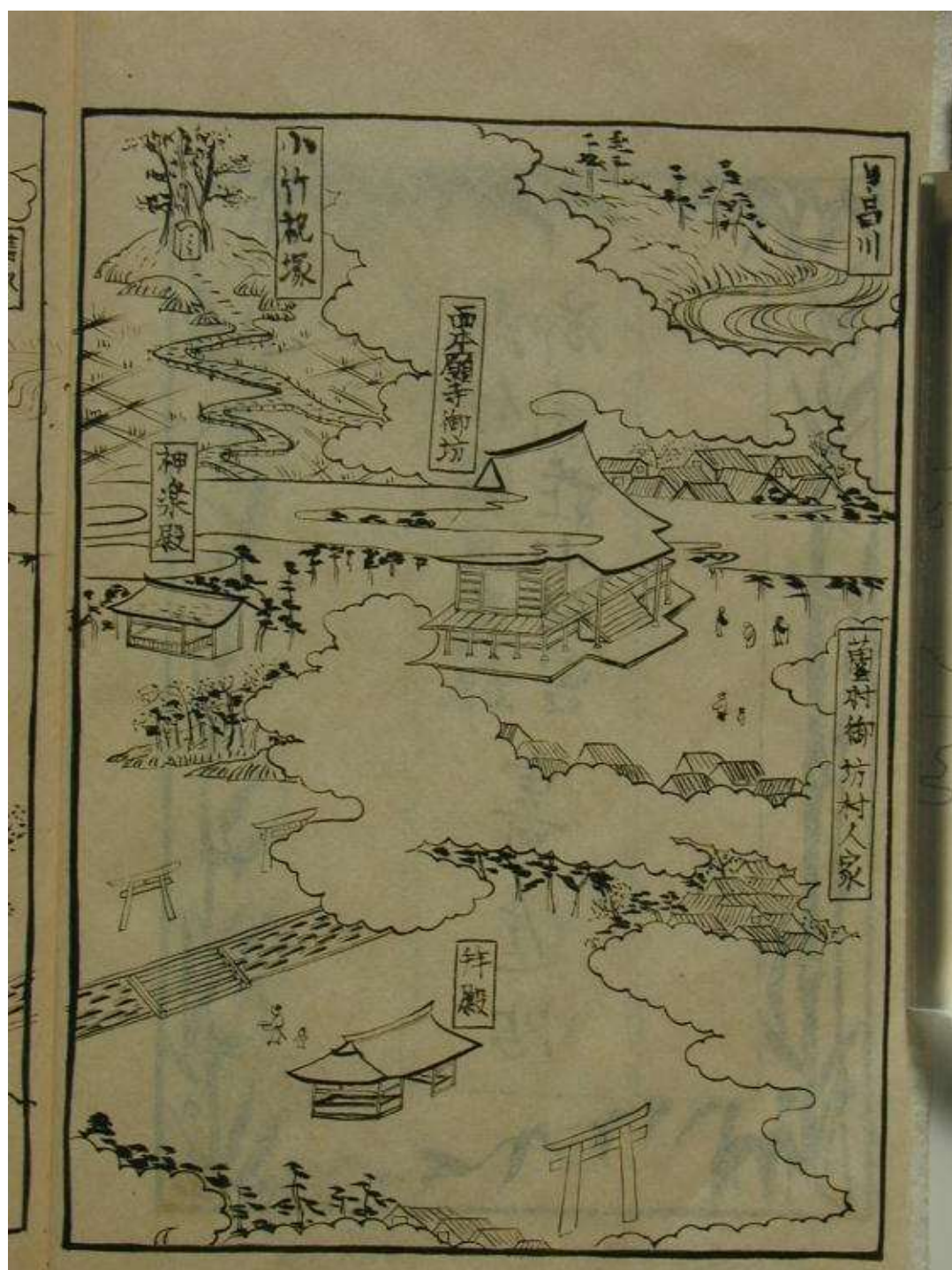
紀伊國日高郡

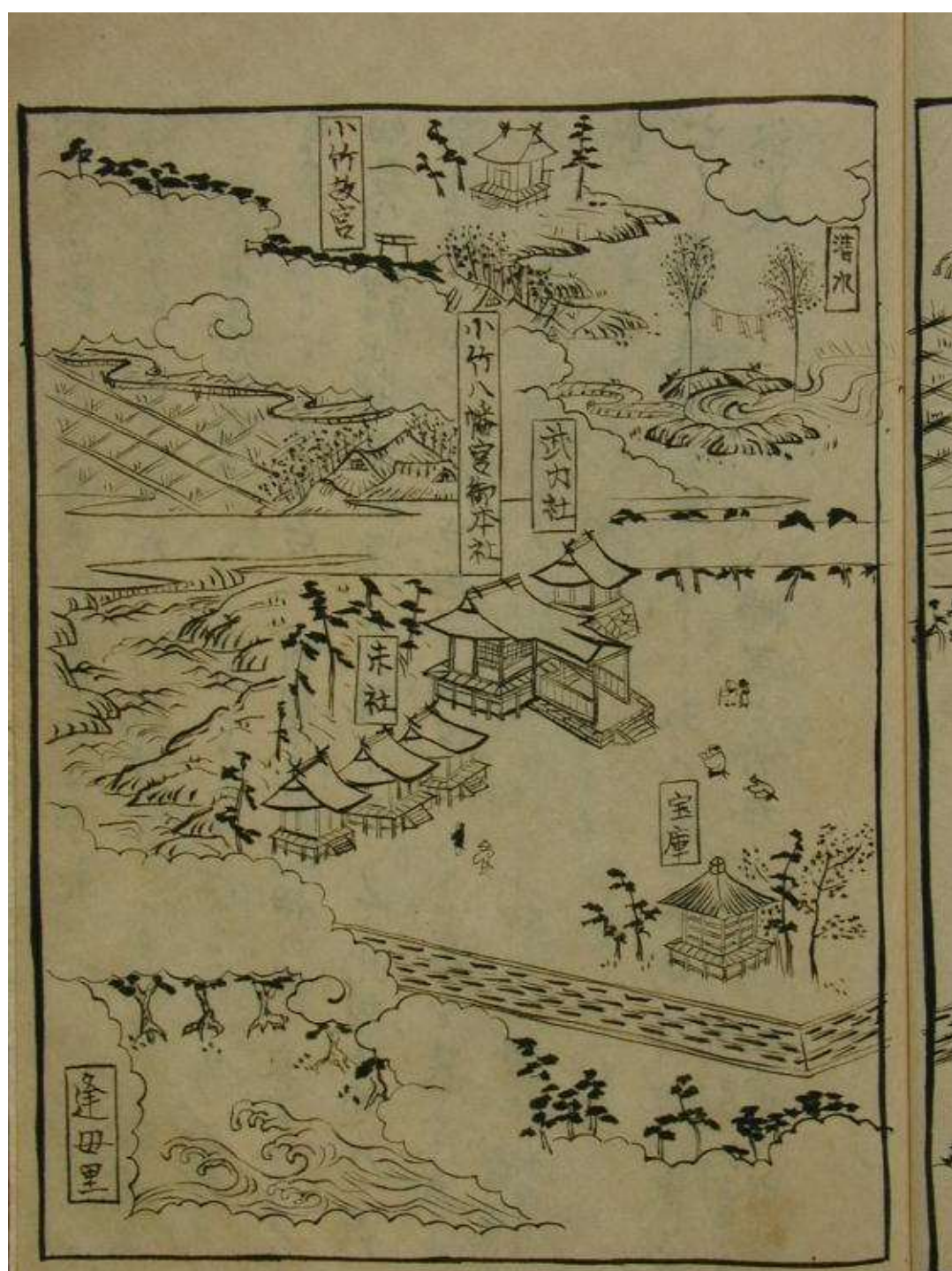
御蔭莊八幡宮

寄進帖

紀伊國日高郡
御園莊小竹宮

寄進帖





抑曰高郡小竹八幡宮御鎮座者日本紀曰

神功皇后三韓征伐在御凱陣

乃いまさく爰さかは廣陵王

忍熊王忍熊王皇后忍熊王歿きて天下天下攻うむんとはる既既には事事叙叙戦戦は

かゝんとする頃皇后 前國より紀伊の國に遷うつ玉ふうく

幼君幼君武内宿祢武内宿祢懷は守し護ご一奉りて此國に趣んと

海陸境をめぐて君臣母子相見らるる事を慕慕玉玉漸しは

あて三尾卿に迎逢たまひ逢是是は是相相伴伴は小竹宮に遷うつ玉玉 此時

斯こゝて軍令を爰こゝに議玉ひて天下常常國國より事と事本本紀紀に記す記忍熊王を滅

亡し天下恭平に治りてゐん故に其御神魂を祟祟め

祭奉りて 小竹八幡宮と稱奉是あり 事日本紀日本紀に見えり其大畧大畧を記す

誠は天下泰平洪基の御垂跡申も中々恐とあり武運
長久子孫繁榮祈ふ感應あり信ずるは徳日新なり
仰ても仰べー信ても信ずべー

今般御社破壊にあひ造営なり奉らん事を發
起す信心の輩或家の多少と論せし速寄附頂ん
事次第希願所也仍て寄進帖如件

享和四甲子年

小竹宮神主

小竹但馬正

御宮世諸人等

謹述之



本書原本は松原村田井田端春三氏所藏のものである。

格別資料といふ程のものではないが書中の絵圖がおもしろいので寫した。

たゞし絵圖は自分ではうまくゆかないので 御坊町本町いろは書房の女店員を煩した。

この人は南美會同人で塩路香蘭と称し 美人画を得意とする女性である。

享和四年は二月十一日文化と改元あり 西紀一八〇四年にあたる。

昭和二十八年十一月十二日夜

清水 長一郎 識

『御蘭莊八幡宮寄進帖 複写を終わって』

父の後書きのごとく 中表紙及び絵圖が奇麗に書き写されていたので デジカメで複写した。又本文も二頁と数少なく 字も比較的大きくそのまま読めるので 写真版とした。八九月と病氣入院で進行がかなり遅れている。体調回復と共に少しづつピツチをあげてゆきたいと思っている。

平成十八 二〇〇六 年十月十七日

清水 章博